

會計簿之確定

佛朗西  
國政法



114  
A2309



全國計算法

第九章 歲出入會計簿ノ確定

第一節 総規則

第百七條 會計簿ノ確定ハ格段ノ法律ヲ以テ  
為スルナリ石ノ法律ノ議案ニ各卿ノ勅定書  
ヲ附ケ添フ可シ

第百八條 落成シタル會計上ノ年ノ會計簿ノ  
確定ノ為メノ議案及ヒ其レニ附屬ス可キ勅  
定書ハ其落成シタル會計上ノ年ノ翌年ノ始  
メニ二月間ニ之ヲ民選議院へ届ケ出ス可シ

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

但シ假令ハ明治七年卜唱ハタル會計上ノ年  
明治八年八月三十一日ニ落成ニナルヨリ  
テ明治七年卜唱ハタル會計上ノ年ノ會計簿  
ノ確定ヲ為ス可キ法律ノ議案ヲ明治九年第  
一第ニ月中ニ民選議院ニ屆  
ケ出ス可シト云フナリ

第百九條 會計簿ノ確定ヲ為ス可キ法律ハ會

計簿ノ各篇ヲ區部スルヲ以テ之ヲ作立ス可

但シ併同會計簿ノ設立  
ニ任方ト云フ調書ヲ見合シ

第百十條 海軍當年ノ器具ノ目錄表ノ確定ハ

右會計簿確定法律ニ為スナリ

第二節 歳入ノ確定

第百十一條 各會計上ノ年ノ確定法ノ議案ニ附

加シタル會計簿確定表ニハ歳入ノ了ニ付テ  
左ノ區部ヲ顯ス可シ

一 歳入ノ元ノ積

一 租税及ヒ他ノ歳入ニ付テ證明シタ

ル權 但シ石ハ即チ實際上ノ檢査ヲ  
得可キ租税及ヒ  
歳入ト云フナリ

一 收納ス可キ租税及ヒ歳入ノ内既ニ

收納セシ分

一 收納ス可キ租税及ヒ歳入ノ内未タ

收納セリル殘金

第三節 收納ス可キ租税及ニ歳入ノ

内收納ス可キ残分ノ決算

第百十二條 毎年大藏卿ハ己レノ総体ノ勘定

書ニ其前ノ會計上ノ年ノ落成ノ節未タ收納

セサルニヨリ其後々ノ會計上ノ年ノ入用ニ

訣当セシ歳入ノ内當會計上ノ年中收納セシ

分ヲ記シタル表ヲ記入ス可シ

但シ右ハ各歳入ノ類ニ應ジ區部ス可シ

第百十三條 落成シタル會計上ノ年ノ残り歳

入ノ内收納シタル金高ハ當會計上ノ年ノ歳

入ニシテ入ル可シ

第四節 歳出ノ確定

第百十四條 各會計上ノ年ノ確定法ニ附屬シ

タル會計簿ノ確定表ハ左ノ通り各篇ニ區部

シテ費金ヲ顕ス可シ

一 允許シタル定額金

一 國ニ對シテ諸債金ノ権但シ石ハ即チ債金ニ於

テ政府ヨリ受クルヲ得可キ金高ト云ナリ

一 諸債金ノ田ヨリ受クルヲ得可キ金

高ノ内既ニ拂ヒ濟ミシ分

一諸債主ノ國ヨリ受クルヲ得可キ金

高ノ以未タ拂ヒ渡サバ<sup>ル</sup>殘金高

第百十五條

毎年ノ會計簿ノ法律但シ翌年ノ歲

ノ法律ト云ニ允許シタル定額金ノ内州。邑及

他ノ地方ノ用務ノ為メ允許シ格段ニ定メ

タル歲入ヲ以テ之レニ供用ス可キヲ定メ

タル所ノ定額金ハ命拂者タル各卿ヨリ之ヲ

使用シ且ツ夫レニ管スル費金ヲ既ニ收納セ

シ歲入ノ金高ニ應シ之ヲ確定スルヲナリ即

チ其會計上ノ年ノ落成ノ時ニ至リ假令其レ

既ニ收納セシ歲入ノ金高及ヒ元ト會計簿ニ

允許シタル定額金ノ高ノ間差違之レ有リト

虽氏其差違ニ供用ス可キ為メ定額金ヲ減少

シ或ハ増加スルニ及ハス

猶元ト歲出入ノ積書ニ大概記シタル出入高

ト石ノ實際ノ使用ヨリ證明シタル歲入高ト

ノ積書<sup>差違</sup>ニヨリ生シタル積高ノ變改ノ實正ヲ證

スルニ會計簿確定法律議案ニ石ノ變改ノ明

細ノ表ヲ附ケ添フ可シ大藏省ノ総体勘定書

ニモ此表ヲ記入シ又元トノ會計簿ノ歲出入

ノ積高ニ格別ノ法律ヲ以テ年中加ヘタル變  
改ヲ略記シタル表ヲモ其勘定書ニ附ケ添フ  
可シ

但シ右畧記書ノ作立ハ大藏卿各卿ト相諮  
ノ上之ヲ為スナリ

石ノ略記書ニハ實際ノ收納及ヒ拂ヒ方ニヨリ  
定額金及ヒ歳入ノ金高ヲ記定スルナリ右ハ  
民送議院ノ決議ニ勸告ス可キ會計簿ノ確定法  
律ノ為メ勘定ノ基キニナル可シ

第五節 定額金ノ使用ノ落成

第百十六條 各會計上ノ年ノ総テ費金ハ其會  
計上ノ年ノ落成ノ時ヨリ七ケ月中悉ク之ヲ  
決算シ命拂セザレバ得ス

第百十七條 国幣ヨリ各卿ノ命拂書ニ應シ為  
ス可キ拂ヒ方ハ其會計上ノ年ノ後ケノ年ノ  
八月三十一日迄ニ限ル可シ

第百十八條 孰レノ債主モ若シ前条ニ記シタ  
ル後年ノ八月三十一日迄ニ已レニ拂フ可キ  
金高ヲ願ヒ求メラルニ於テハ其レニ渡シタ  
ル命拂書及ヒ手形ヲ各省ノ勘定簿ニ取り消

ス可シ尤モ政府ノ負債ヲ拂ハシムルヲ得可  
キ為メ佛朗西司法律ニ定メタル五年ノ期限  
ニ至ル迄後年ノ會計簿ニ其命拂書及ヒ手形  
ヲ再記スルヲ得可シ

第百十九條 會計上ノ年ノ後々ノ年ノ八月三  
十一日迄ニ至リ實際ノ拂ヒ方ヲ以テ未タ便  
用セラル定額金ノ全部或ハ一部ハ會計簿ノ  
確定ノ後々各省ノ勘定簿ニ之ヲ消ス可シ尤  
モ左ノ条ニ從テ法律ニ免ルシタル格段ノ定  
額金ノ移轉ハ格別ナリ

第百二十條 會計上ノ年ノ落成ニ至リ各州ノ  
平常ノ費金随意ノ費金或ハ非常ノ費金トシ  
テ不トル量<sup>カガストル</sup>地戸籍術ト格段ノ教育入費及ヒ  
地稅人稅家稅ノ内納ムルコトヲ能ハサル分ニ  
供用ス可キ為メ免許シタル租稅ノ増シ錢及  
ヒ地方ノ歳入ノ全金高ノ内未タ使用セサル  
金高ハ會計簿ノ確定法律ニ於テ之ヲ他ノ後  
ノ會計上ノ年江移轉シ即チ之ヲ使用スルヲ  
得可キ年ヲ定ム可シ但シ元ト右ノ定額金供  
用ス可キ所ノ費金ノ類ハ之レ可アラズ

第百二十一條 前條ニ記シタル定額金ノ移轉  
ハ會計簿確定法律ニ於テ別々ニ之ヲ記定ス  
可シ尤モ其定メタル會計上ノ年ノ始メヨリ  
命拂者タル各卿ハ此定額金ヲ使用スルヲ得  
可シ

第百二十二條 會計簿ニ記シタル歳入ノ内誤  
ケ収メタル金高或ハ罰金或ハ取上テ物品等  
返シ戻ス為メ允許シタル定額金ニ付テハ大  
藏省ノ總勘定書ニ格段ノ表ヲ添ヘ各々會計  
上ノ年中之ヲ返シ戻ス為メ成シタル拂ヒ方

ト其供用ス可キ所ノ歳入トシ此ノ表ニ對書  
ス可シ

第六節 歳出金高ノ内残り拂フ可キ  
金ノ決算及ヒ落成シタル會  
計上ノ年ニ管スル費金

第百二十三條 既ニ落成シタル會計上ノ年ニ  
管スル費金ヲ拂フ可キ為メ為ス可キ所ノ拂  
ヒ方ハ當年ノ金高ノ内ヨリ之ヲ命拂ス可シ  
第百二十四條 前條ニ從テ落成シタル會計上  
ノ年ノ費金ヲ當年ノ金高ノ内ヨリ拂フ可キ



為メ各卿ヨリ渡スヲ得可キ金拂書ハ其落成  
シタル年ノ會計簿確定法ニ於テ其落成年ノ  
残り拂ヒ金ニ付テ取リ消シタル定額金ノ高  
ニ限ル可シ但シ右金拂書ノ金高ハ各省ノ會  
計簿中覺トシテ拾別ノ章ニ記ス可キ者ニシ  
テ之レ等ノ為メ別段ニ定額金ヲ允許スルニ  
及ハス前年落成シタル年ノ為メ為シタル拂  
ヒ方ノ金高ハ右ノ書ニ入金トシテ記ス可シ  
且當年ノ會計簿ヲ確定ス可キ時ニ至リ之ヲ  
民選議院ヨリ允許シタル定額金ノ中記ス可

弟百二十五條 尤モ會計上ノ年ノ落成ニ至リ  
其勘定書ニ於テ残り拂金トシテ記シタル費  
金但シ定額金ヲ定メ允  
許シタル費金トスハ各卿ヨリ當會計上  
ノ年ノ確定法ノ決議ヲ俟タスシテ之ヲ金拂  
ス可シ

弟百二十六條 落成シタル會計上ノ年ノ勘定  
ニ證明シタルハ虽氏其會計上ノ年ノ確定法  
ニ於テ記シタル残り拂金高ノ内ニ入レラル  
負債ニ供ス可キ為メ左ノ形式ニ從テ允許シ

タル加補ノ定額金ノ体裁ヲ用弁レハ之ヲ拂  
フ能ハス

一若シ右ノ負債ノ高ハ同高以上ノ定  
額金ヲ取り消シタル會計簿ノ篇ニ  
属スルニ於テ右ノ外定額金ノ布令  
ヲ以テ允許スルヲ得可シ

一若シ右ノ負債ハ會計簿ノ各篇ニ誤  
用ス可キ定額金ヲ過キル時ハ法律  
ヲ以テ其要スル外ノ定額金允許シ  
タル迄ハ各卿ヨリ之ヲ命拂入可カ

ラス

一政府ヨリ必ス拂フ可キ費金ノ内歳  
出入ノ會計簿ニ於テ假ノ積リノ  
為スヲ得可キニヨリ其執行ノ後々  
ノ實高明了ス可キ所ノ實金ハ當  
法律ノ第三十二条ニ從テ會計簿ノ  
確定法ニ其拂ヒ方ヲ定ム可シ

第百二十七條 前年各卿ノ勘定書及ヒ大藏省  
總勘定書ニ於テ格別ノ表ヲ記シ右ノ表ニ落  
成シタル會計上ノ年ノ為ハ各篇ニ區部シテ

左ノ作々ヲ記ス可シ

一 残り拂ヒ金ニ付テ會計簿ノ確定法

ニ取り消シタル定額金

一 格段ノ増加定額金ヲ以テ供用セシ

積リ外ノ費金

一 債主ノ権ナクナル可キ期限迄其レ

ニ為シタル拂ヒ方

第百二十八條

債主終身限リ同債  
デットトビヤジエル。官禄隱居

料等ノ如ク其受ク可キ人ノ存余ヲ糾セシ上

ノニ拂フ可キ他ノ雜費ニ付テハ前會計上ノ

年ノ落成ノ期限迄拂ヒ渡シタル金高ヲ以テ  
其會計簿ノ確定ノ為メ費金ノ高ヲ勘定ス可  
シ

猶其落成ノ後チノニ右ニ付テ頭シタル債主

ノ権ニ基キ其落成シタル會計上ノ年中拂フ

可キ答所ノ金高操戻ス為メノ費金ハ當會計

上ノ年ノ落成ニ至リ其會計簿ノ確定法ノ格

段ノ書ニ此レノ費金ヲ記ス可シ且ツ其レニ付

テ定額金ノ移轉ハ毎年會計簿確定法共ニ民選

議院ノ決議ニ勸告ス可キ命令ヲ以テ之ヲ允

許スルヲナリ

第百二十九條 會計上ノ一年ノ勘定書ヲ確定セシ次第命拂者タル各卿ハ其會計上ノ年ノ落成ノ時ニ至リ未タ拂ヒ渡リタル負債ノ名表ヲ作立セシム可シ

猶千八百三十四年五月二十三日附キノ法律ノ第九條ニ從テ先許シタル格段ノ定額金ニ由リ漸々右ノ拂ヒ殘金ニ加フ可キ他ノ負債ニ付テハ右ト同様ノ法式ニ從テ記ス可キ者ニシテ二通ヲ作り二通共大藏省ニ出ス可シ

第百三十條

當會計上ノ年ノ金高中ヨリ拂ヒ戻ス可キ所ノ落成シタル會計上ノ年ノ殘リノ費金ハ其各々債主ヲ別々ニシテ之ヲ命拂ス可シ右ノ命拂書ハ其レ之ヲ出シタル年中ノニ用フルヲ得可キ者ニシテ其翌年ニ至リ國幣ノ官負ハ自ラ之ヲ取り消ス可シ其後各卿ハ其債主更ニ之ヲ願ヒ求メサレハ再ヒ之ヲ命拂ス可ラス

第百三十一條

落成シタル會計上ノ年ノ費金ヲ拂ヒ戻ス可キ為メ渡シタル命拂書ノ拂ヒ

方ハ大藏卿前ノ第百二十九条ニ記シタル名  
表ヲ見糺シ以テ其費金ハ全ク各卿ヨリ使用  
スルヲ得可キ残り定額金ニ誤用スルヲ證  
明セシ上ノ之ヲ為ス可シ

第百三十二條 毎年ノ終リニ至リ同幣ノ官負  
ハ落成シタル會計上ノ年ノ費金ヲ拂ヒ戻ス  
為メ当年中已レ等為シタル拂ヒ方ノ目録表  
ヲ大藏卿へ差出ス可シ但シ右ハ各省及ヒ各  
會計上ノ年ノ為メ別々ニ表ヲ作り且ツ各表  
ヲ各篇ニ區部ス可シ

第百三十三條

國債 永久年金ノ拂ヒ

戻シ及ヒ計算

師ノ抵当金ノ利息ノ拂ヒ方ノ費金ハ國債簿  
ニ記シタル書表ニ基キ拂フ可キ者ニヨリテ  
之ヲ拂ヒ渡ス為メ前ノ第百三十一條ニ記シ  
タル大藏卿ノ検査及ヒ前ノ第百二十九条ト  
第百三十二条トニ定メタル名表ヲ為スニ及  
ハス唯右両費金ニ付テ略記ノ目録表ヲ為ス  
トテ足レリトス但シ其目録表ヲ費金類ニ應  
ジ之ヲ區部ス可シ

第百三十四條

落成シタル

等ノ決算成

就

ノ千八百三十一年一月十九日附キノ法律ノ  
第九條ニ定メタル五年ノ期限ニ至リ残リノ  
費金有ルニ於テハ其費金ニ供用ス可キ所ノ  
定額金ヲ全ク取リ消ス可シ其時ヨリ右ノ會  
計上ノ年ノ事ハ各卿ノ勘定簿ニ記入セサル  
コトナリ  
第九百三十五條 毎年勘定總検査院ニ届ケ出ツ  
可キ所ノ勘定ノ移轉ノ略記書ノ終リニ落成  
シタル年ノ決算ニ関スル計算ノ所業ヲ陳述  
ス可シ

猶大藏卿ニ於テ右ノ證書トシテ命拂者タル  
各卿ヨリ作立シタル名表一通ト同幣官負ヨ  
リ已レニ届ケタル拂ヒ方ノ目錄表ト并ニ永  
久年金ト抵当金ノ利息トノ為メ為シタル略  
記書ヲ同院へ差出ス可シ計算總検査院ニ於  
テ右證書ヲ以テ落成シタル會計上ノ年決算  
ニ関スル所業ノ實正ヲ見糺セシ上千八百三  
十四年五月二十三日附キノ法律ノ第八第九  
及第十條ニ違背セザリシコトヲ已レノ年々  
ノ公告ニ記ス丁キナリ

第七節

會計上ノ年ノ始メヨリ五年ノ  
後子ニ至リ債主政府ニ對シテ  
權ヲ失フ可キヲ

第百三十六條 國ニ對シテ負債ノ内總ヘテ其  
屬スル所ノ會計上ノ年ノ定額金ノ使用ノ落  
成ノ前拂フ能ハザル負債ハ若シ其證據足ラ  
サルニ因リ落成シタル會計上ノ年ノ始メヨ  
リ五年ノ後子ニ至ル迄未タ之ヲ決算シ命拂  
シ拂ヒ渡スヲ能ハザル時ハ之ヲ全ク取り  
消ス可シ即チ其債主國ニ對シテ之ヲ拂ハシ

ムルノノ推シ失フ可シ但シ右ノ五年ノ時  
ハ西洋国ニ住居シタル債主ノ為メ定ムル者  
ニシテ歐羅巴外ニ住居シタル債主ノ為メ右  
ハ六年トス

猶前ノ法律ニ定メ或ハ政府ト債主トノ間相  
ニ決シタル格段ノ条約面ニ債主其推シ失フ  
可キ為メ他ノ期限ヲ記載スルニ於テハ格別  
トス

第百三十七條 右ノ期限ニ至リ未タ拂ヒ渡ス  
能ハサルト虽モ政府ノ執行ニヨリ拂フ能ハ

サルヤ或ハ国議院ヘ右ノ費金ニ付テ控訴有  
リテ其控訴裁判済ニナラサルニ因リ之ヲ  
拂フ能ハサル時ハ格別トス即チ其債主前条  
ノ件々ニ関スルニ及ハス  
孰レノ債主モ己レノ負債関スル卿ヨリ其負  
債ヲ拂ハシメシメガ為メ己レノ為シタル願書  
ノ受取書ヲ求メ願書ノ月日及ニ願書ニ附属  
シタル證書ノ目錄ヲ之レニ記セシムルヲ得  
可シ

第百三十八條 右ノ受取書ヲ記スルニ各劣或

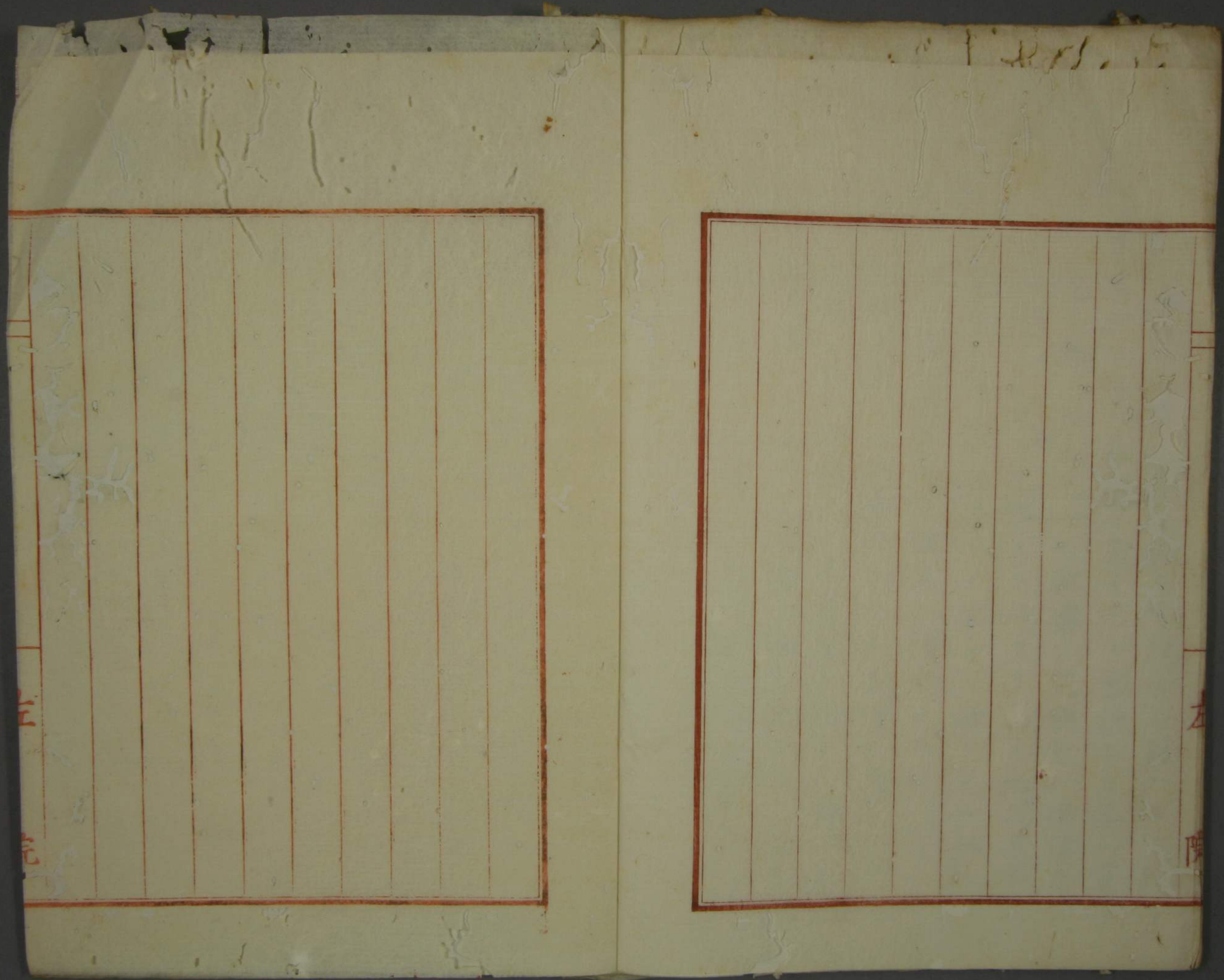


ハ冬司ニ於テ負債ノ證書ノ落手ヲ證明スル  
為ノ平常記ス可キ簿冊或ハ書狀ニ基ク可シ  
第百三十九條 猶千八百三十一年一月二十九  
日附キノ法律ニ從テ債主歐羅巴外ニ住居ス  
ルヲ以テ期限ヲ一年タケ延フ可キニ因リ或  
ハ同法律ノ第十條ニ定メタル場合ニ債主ノ  
權ヲ失フ可キ期限ニ関スル可カラサル負債  
有ルニ因リテ或ハ債主ノ權ヲ失フ可キ為メ  
別ノ期限相ク決シタルニ因リ各卿ニ於テ右  
ノ五年ノ期限ノ後テ拂フ可キ所ノ費金ハ會

計簿ノ各条ニ區部シタル非常ノ定額金允許  
シタル迄ハ各卿之ヲ余拂スル能ハス  
右ノ費金ハ期限ヲ過キシ會計上ノ年ノ費金  
トノ表題ニ記シタル當會計上ノ年ノ會計簿  
ノ章ニ記スルヲナリ若シ此費金ヲ拂フ可キ  
為メ允許シタル非常ノ定額金其属スル所ノ  
會計上ノ年ノ落成ノ時ニ至リ右ノ費金未タ  
拂ハサルニ於テハ其非常ノ定額金ヲ取り消  
シ且ツ右ト同様期限ヲ過キタル會計上ノ年  
ノ費金ニ供ス可キ更メ定額金允許シタル後

チナ... 之... 會拂スル能ハス  
茅百四十條。期限ヲ過キタル會計上ノ年ノ負  
債ヲ拂フ可キ為メノ非常ノ定額金ハ法律ヲ  
以テノミ之ヲ允許スルヲナリ尤モ永久<sup>レ</sup>ノ年<sup>ト</sup>  
金<sup>ト</sup>及ヒ債主終身限りノ年金ノ滞リタル拂ヒ  
方ノ為メ要スル定額金ハ格別トス。  
期限ヲ過キタル會計上ノ年ノ負債ノ為メニハ  
落成シタル會計上ノ年ノ負債ノ為メノ如ク名  
表ヲ作り二通ヲ大藏省へ届ケ出ツ可シ但シ  
右二通ノ中一通ハ計善總検査院ニ差出ス可

シ



五

六

七

八

